

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あすなろ窪田)

事業所番号	0690400080		
法人名	あすなろの会		
事業所名	グループホームあすなろ窪田		
所在地	米沢市 窪田町窪田1421-1		
自己評価作成日	平成25年 8月 20日	開設年月日	平成21年 6月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と日々の生活の中で、日常の作業を利用者の協力得ながら行なっている。職員それぞれが役割を担当し、責任を持って行なえるような環境作りを実施している。(業務の簡素化を進めていてマニュアル作成・見直しをその都度行なっている。担当が変わっても直ぐ対応できる状態にしている)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

従来の民家を改築した事業所であり、家庭的な雰囲気の下に過ごせる環境となっている。食事は毎朝利用者の希望を聞き、一緒に買い物に出かけ、調理や片付けも利用者と職員と一緒に行う等、家庭的な雰囲気のもとに生活が送れる事業所となっている。法人全体での職員に対する研修への取り組みや、事業所として理念に対する実践方法等を職員間で話し合いを行うなど、より質の高いケアを目指して取り組みを行っている事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成25年 9月 19日	評価結果決定日	平成25年10月31日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について職員全員で話し合い、掲げた理念を達成する為方針の見直しを行なった。	8月のミーティングで全職員で理念の実践の方針を話し合いを行い、実際の介護計画に各職員が繋がられるよう取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などで出かけた時に顔を合わせ話をしたり、夏祭り・芋煮会などにも多くの地域の方々からの参加を受けた。コミュニティーセンターとの関わりも図られている。	町内会に加入している、回覧板で夏祭りのお誘いをまわし、夏祭りで使用するテントや椅子をコミュニティーセンターから借りる等地域との係りを作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、事例を報告し、認知症の方々の理解を得ている。又改善案なども受けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的な会議を実施している。地域のメンバーも毎回3名は参加して頂いて居り、以前より活発な意見交換が出来ている。	地区長、家族、市の担当者、法人、事業所からの参加で定期的に開催している。事業所の報告、その時々課題をテーマにしているが、次回に繋がる課題等を計画して、より以上の意見が出されるように計画をたてる事が期待され	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者が多い為、福祉課からの訪問が多く協力体制は築けている。	生活保護の対象者がいるので、訪問の機会が多く、事業所の事を理解して頂いているので、相談し易く、気軽に相談できる体制ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかける工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	ミーティング等で身体拘束の勉強会を行い、知らず知らず行なっている行為が虐待に繋がっている恐れがある事理解を進めている。玄関を出ようとしている方については、抑制せず付き添い関わっている。	玄関にセンサーが設置されている、外出したい人には付き添いで外出している。法人の勉強会で身体拘束とは？の課題で弊害についても研修されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所での勉強会を実施している。声かけについては未だ抑制している場面も見られますが、勉強会を行なった事により職員間で注意し合える環境が出来てきた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等で学ぶ機会を得ている。後見人制度については利用者の中にも必要性を感じている方も居るが、福祉課の担当者に相談する程度に留まっている状態。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明を行なっているつもりではあるが、その都度確認が必要と感じている。家族には、その都度説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーによる意見は多数有り反映させている。他の家族からは来所の際対応し、内容についてはお便りにて報告させて頂いている。	家族からの意見は来所した時に聞くようにしている、事業所からの生活の様子はお便りで報告している。	家族の意見や希望は一部からのものに留まっておりより多くの意見を聞く機会を設けることが望まれ、家族へのアンケート等を検討することが期待される。
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等や日々の会話の中で発言できる雰囲気作りを実施し、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H25年4月から就業環境の改善を進めているが、個々のスキルに合っているかは疑問である。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	H24年下期より介護塾を開講し、個々のレベルに合わせた内部研修を行なっている。又H25年8月からは全職員対象で外部研修(ホスオイタリテイ研修)を行なう予定になっている。(5ヶ月間で5回の研修)	昨年9月より、法人で介護塾を開催し、1時間～2時間の研修を各事業所の管理者が講師になって行っている、又今年の8月からは外部からの講師でホスピタリテイ研修が予定されている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH協議会による交換実習や研修などに参加し、他のGHの方々と交流を図っている。	他事業者との交換実習が行われ、管理者以外の職員が他の事業所と交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前には事前面談の内容を全職員に周知している。開始当初は個別対応し、じっくり関わりを持ち安心して過ごせるよう配慮している。特に出来る事出来ない事の見極めをしっかりと行い、どう関わっていくか職員全員で検討している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所の際時間をとり、日々の報告をさせて頂いたり、要望等相談を受けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意向が優先してしまう事が多く見られるのが現状ですが、GHでの生活が適切であるかは職員で話し合いの時間を持っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は何とか助けになりたいと思って居られます。職員がその気持ちに気づいて対応してくれていますが、一部一方的な介護してしまう傾向にある職員も見られます。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの協力は薄いものの本人の様子を伝えたり、必要な時は実際の様子見て頂き、関わり方を提案し一緒に改善方法を検討している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	拘って出かけた所には付き添い、面会者とゆっくり落ち着いて会話が楽しめるよう配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がゆっくり過ごせる環境を整えたり、畑仕事など共同作業が出来るよう支援している。又食堂なども配慮し無理のない程度に変更したりしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族とは今でも関わりを持っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から生活歴を伺ったり、本人との会話から思いを把握したり、アセスメントシートを利用し思いを汲んでいます。又職員全員で話し合い本人の意向・希望に近づけるよう努力している。	カンファレンス(ADL,支援計画等)で話し合っている、KJ法を取れいれて出来るだけ本人の意向や希望を汲み取る工夫がなされている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中から習慣・暮らしぶりを把握したり、定期的に行なうアセスメントも家族の声を聴き、今までの生活により近い環境を作るよう心がけている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1度行なっているモニタリングにより、本人の状況把握が出来ている。担当者会議にて共有意識を持ち支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員などから出たアイデアについて良いものに関しては即反映し、介護計画の見直しをしている。カンファレンス等で情報の共有を図っている。	カンファレンスからの情報によって、定期的に支援計画の見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録量は利用者、職員により偏りが生じている。特変については職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事によっては家族・姉妹等を招き、一緒に楽しめる環境を提供している。読書が好きな利用者に対して図書館へお誘いするも実現できていない状態。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	月2回の往診を受けている6名。その他の医療機関・その他の利用者に関しては、職員が付き添い状況を報告し、適切な医療を受けられるよう支援している。	6名の入居者が月2回往診を受け、他入居者は職員が同行して通院しており、その際日常の状況を報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	週1回の巡視の際看護師に状況を伝えている。日々の中で気づきや特変があった場合は、看護師に報告し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と退院時に向けてのカンファレンスを行い退院後の充実を図っている。往診医と総合病院との連携が取れており、協力体制は構築されている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	意向確認書の見直しを検討している。事業所で出来る事を最大限に行なっているが、現段階では医療従事者との方針上の食い違いが生じており、すり合わせ途中である。	今年、家族、本人の意向もあり、事業所で初めての看取りをおこなった。かかりつけ医、看護師、事業所、家族と話し合いを行いつつ行ったが、いくつかの課題も残った。法人として、看取りのマニュアルを作成し他の事業所も含め今後の検討を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習については全員が9月で終了予定。応急処置・初期対応については内部研修にて看護師より一部の職員は受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年2回実施している。	6月は消防署立会いの下訓練を行った。11月には地域へ協力を依頼し避難訓練を行う予定をしている。マニュアルや災害時の備蓄に関して完備されていない。	避難訓練のマニュアルを作り、備蓄、点検、訓練等を継続で行なう事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあわせた声かけを実施している。排泄時には特に配慮しているものの、不適切な言葉かけも見られる事がある。	法人の勉強会で課題になって、研修をおこなっている、又現場においては、その都度管理者が注意をして、指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できるよう配慮し自己決定出来るよう支援しているものの、職員判断により決定されている場面も見られる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで過ごされておりますが、希望に副えない状況も時折有ります。又一部の職員側の判断になってしまう傾向も有ります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や毛染めなど希望に副って対応しています。洋服については、着方などこだわりが有り本人に任せておりますが、何枚も重ね着していたりした時にはアドバイスさせて頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みで無いものに関しては他の物と代替したりして好みに合わせ対応しています。片付け・準備等は体調に合わせて行なえています。	その日、その日で入居者と相談して、献立を考え、午前中に利用者、職員と一緒に買い物に行き、調理、盛り付けも一緒に行い、洗いものも行っている。食席を替えたら、完食した例もあり、利用者の意向を聞く機会になった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせた形態や適量を提供している。定時以外での水分補給も十分出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。又訪問歯科により5名の方については口腔内のクリーニングや指示を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	4月に入所された方でリハパン使用でしたが、排泄のパターンを把握し、現在は昼夜布パンで過ごされています。その他の方についても個別に排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行なっております。	現在は布パンが4名、リハパンが5名で紙おむつの使用者はいない、常時失禁している方もおり、医療面での対応も検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材での食事提供や、十分な水分補給も行っている。どうしてもうまくいかない時には薬に頼ってしまっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度の時間設定はしているが、本人の要望にあわせた対応をしている。落ち着いて入浴出来る様ゆったりした時間を提供している。	週2回を基本として、希望があれば、毎日でも入浴はできる状況になっている。入浴を拒否する時は利用者同志でおさそいをして、入浴する時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調には十分配慮している。エアコンを嫌う方には、食事中や居室を留守にする時に居室を冷やす等工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい処方箋は直ぐ手に取れるようにコピーして記録机に置いている。又追加になった薬については、様子観察し、記録して副作用等がある場合はその都度自社看護師や主治医に報告しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いせず個々の自主性で行っております。気分転換が必要だと判断したり、本人の希望により買い物やドライブ等外出しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	購入品の希望が有る時には個別に買い物に出かけたり。日常的な買い物にお誘いし、外出していません。墓参りなどには家族の協力により行なっております。	毎日順番に買い物に同行している。個別の買い物(化粧品等)に対しても対応している。ドライブでダリア園に、外食で(ラーメン等)楽しんでいる。今年から、玄関の脇に菜園を作り、外に出る機会をつくっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自財布を持っていて職員が管理している。外出時には必要に応じて持ち出し買い物をしている。出納帳は一緒に記入し、定期的に家族来所時確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により家族に電話しております。以前いた職員にも手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い建物ではあるが、心地よく居心地の良い空間を提供している。室温には特に注意を払っている。	窓が広く、田んぼが一面に見え、明るく、人が集まるのに広さも適当で人間関係が作られる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ソファーやホールのソファーにて気のあった者同士談笑されています。又食席で縫い物をしたり本を見たりと思い思いに過ごされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮し、危険が無い程度に使い慣れたなじみの物を持参頂き、落ち着いた生活が送れるよう工夫しています。	各室馴染みの物が持ち込まれていて、その人らしい生活がある。静かで、落ち着ける。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	担当者が中心となり、それぞれの出来る事・わかること見極めをし、過剰な介護にならないよう支援している。		